

# パキスタン大規模地震被害への 緊急無償資金協力の完了について

平成18年4月28日  
外務省経済協力局無償資金協力課

パキスタン大規模地震被害に対する緊急無償資金協力が完了しました。

## プロジェクトの完了

- ・昨年10月にパキスタンで発生した大地震の緊急支援のために、我が国はパキスタン政府に対し1,200万ドルの緊急無償資金協力を行いました。
- ・本支援では、震災発生直後から、特に被害の大きかったアザド・ジャンム・カシミール(AJK)州及び北西辺境州の被災者にテント、毛布、食料、医療機材等の緊急支援物資が届けられ、本年1月には当初予定の約9割が現地に到着しました。そして、この度残りの分も含めて全て無事に完了しました。
- ・今回の支援実施に際しては、迅速な支援を行うために(財)日本国際協力システム(JICS)がパキスタン政府の調達代理機関として調達を担当しました。また、支援物資が確実に被災者に届くことを確認するために第三者機関によるモニタリングを実施しています。
- ・本支援は、パキスタン政府や被災者より大変感謝されており、パキスタン政府の責任者から支援の完了に際し、日本国民に対する感謝の手紙が届いています。(別添1参照)
- ・また、我が国は今回の地震に対して、地震発生直後より、本緊急無償資金協力以外にも国際緊急援助隊の派遣や総額約2億ドルに上る資金協力を行ってきています。(別紙2参照)
- ・現在も被災地の人々に対し、切れ目のない支援を実施するためにも40億円のノン・プロジェクト無償資金協力を活用した復興支援活動が続けられています。



被災民に届けられたマット



被災民に届けられた砂糖

## プロジェクト完了までの経緯

- 昨年10月8日 地震が発生し、死者約73,000人以上、負者約80,000人以上、被災民約330万人が発生
- 同月11日 本プロジェクト実施決定
- 同月17日 パキスタン政府と口上書の交換
- 同月26日 本プロジェクトによる支援物資の第一弾(ポリタンク5,000個)が現地に到着  
(その後順次物資の調達・輸送)
- 本年1月 当初予定していた支援物資の約9割が現地に到着
- 本年4月 追加支援物資を含む全ての物資の調達・輸送が完了

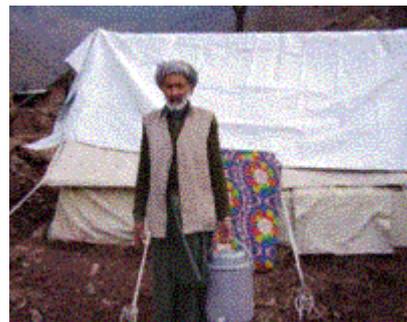
## 調達した物資の詳細

地震発生直後より、生活支援物資や食料等を調達し、被災地に届けてきました。届けられた物資は以下のとおりです。

| カテゴリー  | 調達品目及び数量        |            |                  |              |
|--------|-----------------|------------|------------------|--------------|
| 生活支援物資 | テント             | 6,500 張    | 毛布               | 42,000 枚     |
|        | プラスチックシート       | 6,500 枚    | スリーピングマット        | 21,000 枚     |
|        | ポリタンク           | 13,000 個   | 大型貯水槽            | 10 個         |
| 医療機材等  | 9品目             |            |                  |              |
| 医薬品    | 60品目            |            |                  |              |
| 食料     | ビスケット           | 1,000 ㎏    | 米                | 1,836,190 ㎏  |
|        | 豆缶詰             | 300 ㎏      | 小麦粉              | 1,931,428 ㎏  |
|        | 鳥缶詰             | 200 ㎏      | レンズ豆             | 891,137 ㎏    |
|        | トウモロコシ缶詰        | 4,000 カートン | 食用油              | 353,176 リットル |
|        | イワシ缶詰           | 3,600 カートン | 砂糖               | 204,709 ㎏    |
|        | サバ缶詰            | 3,000 カートン | 茶                | 24,388 ㎏     |
|        | 魚辛み揚げ缶詰         | 5,000 カートン | 缶切り              | 5,000 個      |
| 建設機械   | ブルドーザー(8トンクラス)  | 5 台        | ブルドーザー (20トンクラス) | 5 台          |
|        | 油圧ショベル(20トンクラス) | 10 台       |                  |              |



AJK州近郊の崩壊した建物



届けられたテント、マット、タンク



ラワルピンディに到着した医療器具



AJK州ムザッファラバードに到着した油圧ショベル

(別添1)

**OFFICE OF THE DEPUTY CHAIRMAN**  
**EARTHQUAKE RECONSTRUCTION AND REHABILITATION AUTHORITY**  
**PRIME MINISTER'S SECRETARIAT**  
**ISLAMABAD**

No. 01/Outgoing/TRC/ERRA/58

Dated: 14 Apr 06

To: Embassy of Japan

Subject: **Donation of Relief Goods for Earthquake Affected Areas**

1. We are appreciative and thankful for the contribution you made for the victims of 8<sup>th</sup> October's massive earthquake. Federal Relief Commission and Earthquake Reconstruction and Rehabilitation Authority received donations of relief goods to include about 5000 tons of rations from your organization. The donation of rations distributed to districts of Jhelum Valley, Muzaffarabad, Bagh and Balakot is greatly appreciated and duly acknowledged. JICS kept us informed regularly for its successful distribution to affected people in these areas in order to help the affected families to survive in extreme weather conditions.

2. We are once again thankful to the people of Japan for their generous donation and concern shown in the hour of need.

( 仮訳 )

首相官房 地震復興支援庁副議長室  
イスラマバード

2006年4月14日

日本大使館殿

#### 地震被災地への支援物資支援

1. 私たちは10月8日に発生した大規模地震の被災者に対する日本の方々の支援に対して感謝しています。連邦復興委員会と地震復興支援庁は、これまで日本から5000トンの食料支援を含む様々な支援物資を受け取っています。ジェーラム峡谷、ムサファラバード、バーグ及びバラコット(注:いずれも被災地)に配布された食料等の支援物資は、大変感謝され、(日本の援助であることが)十分知らされています。JICS(注:(財)日本国際協力システム:本プロジェクトの調達代理機関)は、被災者が厳しい気象状況を生き延びられるように支援するためにも、パキスタン側に対しこれらの地域にいる被災者への物資の配布が順調に行われていることを報告してくれました。

2. 我々は改めて日本の皆様が必要なときに示してくれた支援と真心に感謝します。

地震復興支援庁 副議長

# パキスタン等大地震に対するこれまでの我が国の対応

## 1. 国際緊急援助隊の派遣

### (1) 救助チーム(49名)

10月9日～18日、救助チーム(外務省、警察庁、消防庁、海保庁、JICA、医師、看護師)を派遣。北西辺境州バタグラム郡で捜索・救助活動を実施。



### (2) 医療チーム(42名)

10月10日～11月2日、国際緊急援助隊医療チーム(外務省、医師、看護師、薬剤師、医療調整員、JICA)を派遣。バタグラム郡で医療活動に従事。



### (3) 自衛隊部隊

10月17日、イスラマバード・バタグラム間で活動を開始して以降、11月末まで自衛隊ヘリコプター計6機による、被災者や緊急支援物資等の搬送支援を実施。



## 2. 緊急援助物資の供与(2,500万円相当)

10月9日、2,500万円相当の緊急援助物資の供与を決定。同物資は10月11日早朝、イスラマバードに到着。即日パキスタン政府に引き渡された。



(注)緊急援助物資:毛布2,000枚、ポリタンク768個、スリーピングマット500枚、テント30張、浄水器20台、発電機20台、コードリール30台、プラスチックシート20巻、簡易水槽5個

## 3. 緊急無償資金協力(2,000万ドル)

- 10月11日、被災民救援のため2,000万ドルの無償支援の実施を決定。
- 10月14日、2,000万ドルのうち、12億8,400万円(1,200万ドル)をパキスタン政府に対する緊急無償資金協力として実施することを決定。
- 10月18日、残りの800万ドルを国際機関経由の支援として実施することを決定。

(注)1,200万ドルの用途:テント6,500張、スリーピングマット21,000個、ポリタンク13,000個、毛布42,000枚、食糧、医薬品、瓦礫除去用重機等の購入費及び輸送費等に充当。

(注)800万ドルの供与先:世界食糧計画(WFP):250万ドル、国連児童基金(UNICEF):250万ドル、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR):100万ドル、世界保健機関(WHO):100万ドル、国際移住機関(IOM):100万ドル

## 4. 円借款による支援(112.2億円:約1億ドル)

- 11月19日の復興支援国会合で、塩崎外務副大臣より、緊急復興の資金

需要に対応するため、円借款による1億ドルの支援を行う旨表明。

- 2006年1月5日、イスラマバードで、本円借款の供与に係る書簡の交換

## 5. ジャパン・ファンドを通じた支援(1,000万ドル)

同復興支援国会合で、塩崎外務副大臣より、復興支援の一環として、世界銀行及びアジア開発銀行からの要請を踏まえ、両機関に我が国が設置しているジャパン・ファンドを通じ、各機関500万ドル、計1千万ドルの支援を行う旨表明。

## 6. NGO等の活動、キャンプ・ジャパン(約8.3億円)

- 震災直後から、ジャパン・プラットフォーム(JPF:日本政府、経済界、NGOとの連携により設立された緊急人道支援組織)が、外務省の日本NGO支援無償資金(約5.4億円)を活用、緊急人道支援を実施している。
- パキスタン政府の要請を受け、JPFが、12月中旬より、AJK(パキスタン側カシミール)で越冬支援用のキャンプ「キャンプ・ジャパン」の運営を実施している(ムザファラバード市郊外)。実施経費は、外務省から供与される日本NGO支援無償資金を充当(2006年4月現在、約2.9億円)。同キャンプは、パキスタン政府等より、NGO、政府、国際機関の連携によるベストプラクティスとの評価を受けている。



## 7. 国際機関経由の緊急人道支援(2,000万ドル)

2006年1月5日、麻生外務大臣より、2,000万ドルを国際機関経由の追加的支援として実施する旨表明。

(注)2,000万ドルの供与先:国連開発計画(UNDP):500万ドル、世界食糧計画(WFP):245万ドル、国連児童基金(UNICEF):200万ドル、国連人口基金(UNFPA):130万ドル、国連人間移住計画(UN-HABITAT):15万ドル、赤十字国際委員会(ICRC):500万ドル、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC):280万ドル、国際教育科学文化機関(UNESCO):130万ドル

## 8. ノン・プロジェクト無償資金協力(40億円)

同日、麻生外務大臣より、被災地の中長期的な復旧・復興支援として40億円のノン・プロジェクト無償資金協力を行う旨表明。北西辺境州バタグラムにおける病院、学校、橋梁等の再建及び機材供与を実施する。

## 9. 技術協力による支援

- 同日、麻生外務大臣より、インドとパキスタンを結ぶジェーラムバレー道路上の落橋した橋梁を復旧する旨表明。
- 同日、麻生外務大臣より、AJKムザファラバード市の復旧・復興支援を実施する旨表明。土地利用計画の策定、復旧・復興支援マスタープランの策定、優先リハビリ事業の実施等を行う。
- 2006年1月25日、技術協力プロジェクト「保健医療施設にかかる耐震及びバリアフリー建築指導プロジェクト」が採択。耐震性及びバリアフリーを考慮した一次保健医療施設の標準設計書及び施工管理マニュアルを作成する。

# 地震関連地図

